

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

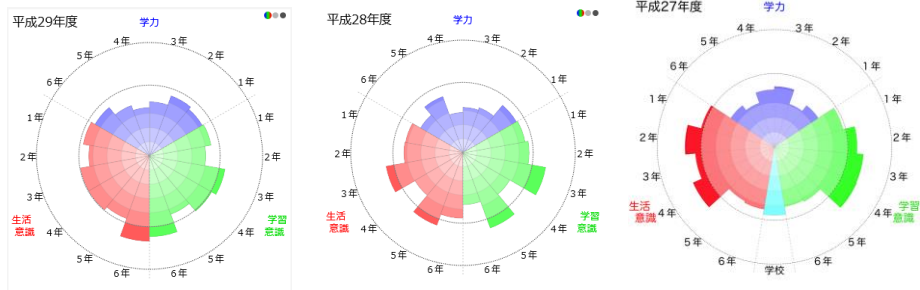
学校経営中期取組目標	
知	○夢中がいっぱい左近山の子 ~仲間とともに まちとともに 未来とともに~ 自ら課題を見つけ、進んで学び、課題解決に向けて粘り強く取り組む子を育てます。
徳	相手の気持ちを考えて、きまりを守って行動できる子を育てます。
体	すべての命を大切に、健やかな生活を心がける子を育てます。
公	町に進んで親しみ、地域に一員として生活する子を育てます。
開	変化する社会の中でコミュニケーションを大切にしながら、視野を広げ、自分らしく生きていく子を育てる。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	・学び合いを大切に、課題を追究し、基礎・基本的内容の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。	①学力・学習状況調査の活用による学校の課題の明確化と対策の実行 ②ノートづくりによる思考力・判断力・表現力の育成と、学習の成果の確認 ③少人数指導やTT指導、特別支援教室による個に応じた指導の充実 ④発達段階に配慮した家庭学習の推進と習慣化
担当	学力向上委	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



前年度、学習や生活の意識が低かった学年も、少し高まり、全体的には市平均に近づいてきている。「社会：学習意識」「理科：学習意識」「国語：配当漢字を正しく書く」など、市よりも上回っているものもある。過去に重点研で総合の学習を子どもたちが夢中でやってきたこと、スキルタイム、特別支援教室などの取組が、少しずつではあるが成果をあげていると思われる。しかしながら、4教科の学力については、学力層CとDが6割近くを占めていて、深刻な状況である。全体では、横浜市の平均をかなり下回っている。スマートホンやゲーム機を家庭で使用している時間が長く、家庭学習する時間が市の平均より不足していることも要因と考えられる。家庭でも反復学習を促し、学習内容を定着させることも必要である。年度初めに、学年懇談会でプリントを配付し、10分×学年（6年生なら60分）の学習への声かけを各家庭に呼びかけた。協力してくださる家庭もあるが、学力については、二極化が進んでいる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：読む力が市の平均を下回っている。書く力、聞く力については、重点的に取り組んでいた学年については、伸びてきている。今後も辞書の活用、家庭学習やスキルタイムの内容、授業での言語活動などの取組に学年の系統性をもたせ、積み上げていく必要がある。
- 算数科：学年によって市平均との差に違いがある。特に、知識・理解が十分でないため、既習事項を活用しきれていないと考えられる。
- 社会科：思考・判断・表現がとても低い。意欲はあるが、学力に結びついていない状況。図表の見方が不十分のため、資料の内容をしっかりと読み取る力も不足している。
- 理科：学習への意識は高い。実験は、興味・関心をもって行うことができるが、思考・表現が市平均を下回っている。事象を関連付けて考え、表現することができていない。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析

過去3年間の経年変化の状況では、学校全体として学習意識・生活意識は少しずつ高まり、学校の授業に対しては、「分かる」「だいたい分かる」と感じている児童も少しずつ増えてきてはいる。これまでの総合や国語の重点研究、普通の授業、学校全体での読書活動（昨年の1年間で17000冊以上の学校図書館蔵書の活用）などで、児童の関心・意欲を高められるような取組をしてきたことが、一定の成果として現れてきたと考えられる。

夢中で取り組むことができる子も増え、学習することは楽しいと思っているが、自分の思いや考えが表現できない点が課題である。基礎・基本の力だけでなく、目的を意識してペアやグループで学習するなど、伝え合う場面を多く設定し、これまで以上に学習したことを活かしながら、表現力・思考力を高めていく必要がある。

## 3 平成30年度 学年・教科としての具体的取組

### 1学年

- 語彙を増やしたり読解力を高めたりするために、読書を進めます。本を入れる袋を机の横にかけ、常に本を身近に置いて読ませたり、担任が読み聞かせをしたりします。
- 普通の授業の中で、ペアで話し合う場面を多く取り入れ、表現する力を育てます。
- スキルタイムにプリント類に取り組みせ、平仮名や計算など基礎的な内容を定着させます。
- 家庭学習では、毎週必ず日記を書かせ、書く力を高めます。

### 2学年

- 「読み・書き・計算」の基礎・基本の定着に向けて、スキルタイムや家庭学習を工夫し、繰り返し取り組めるようにしていきます。
- どの教科においても、ペアでの交流場面をつくり、表現する力を育てます。
- スキルタイムでは、はまっこ学習ドリルや習熟プリントを活用して、既習事項の復習をし、基礎・基本の定着をはかります。
- 家庭学習では、音読、漢字、日記、計算を取り入れ、漢字を活用する力や計算力を高めます。

### 3学年

- 「読み・書き・計算」の基礎的な力を高めるために、学習の時間やスキルタイム、家庭学習を活用し、個に合わせた学習方法で繰り返し取り組めるようにしていきます。
- 思考力を高めるために、相手や目的に応じて、工夫しながら伝え合うグループでの活動を充実させ、自分と友だちの考えを比べ、学び合うことができるようにします。
- 家庭学習では、テーマを設定した作文、音読、漢字、計算を取り入れ、漢字を活用する力や計算力を高めます。

### 4学年

- 文章を書く際に、既習漢字を文中で正しく使い、正しく書くことを意識させます。
- 書いたり話したりする際には、相手や目的に応じて適切な表現ができるように、国語辞典や語彙表を使って語彙を増やしていきます。
- スキルタイムでは、国語は読解を中心に、算数は既習の振り返りを中心に、基礎的な力を定着させます。
- 家庭学習では、音読、漢字の練習に加えて、自主学習に取り組むことで、主体的に学ぶ力を育てます。

### 5学年

- 日頃から国語辞典を活用しながら書くことを習慣化し、言葉の意味を正しく理解したり、表現したりできるようにします。
- 自分の考えを筋道を立てて説明したり、根拠を明らかにしながら伝えたりする力を伸ばします。交流するときには、自分の意見と比べながら、相手の考えを聞いて、考えを広げたり深めたりする力を育てます。
- スキルタイムでは、身に付けさせたい力に合った習熟プリントや、学習している単元に合った前学年のはまっこ学習ドリルを行い、基礎基本の定着を図ります。
- 家庭学習では、自主学習ノートに取り組むことを通して、自ら課題を見つけたり解決までの手順を考えたりして、主体的に学ぶ力を育てます。

### 6学年

- 日頃から国語辞典を活用しながら書くことを習慣化し、言葉の意味を正しく理解したり、表現したりできるようにします。
- 自分の考えを筋道を立てて説明したり、根拠を明らかにしながら伝えたりする力を伸ばします。交流するときには、自分の意見と比べながら、相手の考えを聞いて、考えを広げたり深めたりする力を育てます。
- スキルタイムでは、はまっこ学習ドリルや習熟プリントを活用して既習事項を確認し、基礎的な内容の習得を目指します。
- 家庭学習では、自主学習ノートに取り組むことを通して、自ら課題を見つけたり解決までの手順を考えたりして、主体的に学ぶ力を育てます。

### 個別支援級

- 本に親しみをもたせ興味関心を広げるよう、児童に合わせた本の読み聞かせをします。
- 授業やスキルタイム、家庭学習では、一人ひとりに合わせた内容の学習にスモールステップで取り組みます。
- 朝の会の日直の話など言葉で伝える活動に取り組み、コミュニケーション力を育てます。